

校長室だより

No. 13

平成 27 年 7 月 3 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず  
加 藤 嘉 一



【本年度水泳参観デーより】

### 水泳指導 考え方の違いの一例

今年は、少し寒い日や天気のよくない日がわりとあったように思います。そんな中で、6月30日(火)に水泳参観デーを行いました。

来客があつて残念ながら1年生の参観時間にだけ顔を出すことができませんでしたが、たくさんの保護者の方に来てい

ただいたおかげで、子供たちもがんばっていたと思います。なかでも、4・5・6年生の水泳参観は記録会を兼ねていましたから、子供たちも保護者・友達の声援が力になり、たくさんの子が記録を伸ばしていました。特に、赤帽子(25m泳ぐことを目標)から白帽子(25m泳げる子)にステップアップした子はうれしそうでした。2・3年生も、学校体育の授業として、泳ぐ量や水に親しむ機会が十分確保されていたと思います。1・2年生は、水中宝探しでゲットした宝(ゼリー)を給食の時にごほうびでもらい、うれしそうでした。

こうした様子を見て、以前自分が水泳部の顧問をしていた時の話を思い出しました。

わたしが水泳指導のベテランの先輩(Bさん)から担当を引継いだ頃の話。

ある企業の御好意で、冬の時期にその企業の持つ室内プールで練習できることになりました。そのとき、プールを管理していらした方は、元日本代表選手(Aさん)。水泳部の子達にもアドバイスをしてくれ、大変ありがたい経験になりました。その方は水泳指導への思いも熱いものがあり、わたしにこんな話をしてくれました。

**Aさん「学校で25mとか50mとか距離を目標にさせて泳がせようとするから、水泳嫌いになる。25m泳げるようになることよりも、泳ぐことが楽しいと思うように水の中の楽しさを教えなきゃいけない。」**

若かりしその頃、自分の中ではなかった考えだったので、学校へ帰り、この話を先ほどの先輩にどう考えるか聞いてみました。ベテランの先生の話。

**Bさん「気持ちは分かるが、小学生というのは『何m泳げた』というのが自信になる。小学生の子供であれば、距離が一番わかりやすく、自信と実感をもちやすい。」**

どちらも子供に水泳の楽しさと自信を持たせたい願いは同じです。そんな話を思い出しながらも、相変わらず、赤帽子の子が25m達成できた瞬間を見て、わたしは涙が出そうになりました。

## 第1回学校評議員会より

御報告が遅くなりましたが、6月20日(土)授業参観デーと同時に、第1回学校評議員会を開催しました。以前お知らせしたように、5名の方に本校の学校評議員を委嘱しました。本年度の学校経営方針と具体的な計画、昨年度の学校評価(教育活動アンケート)に見られる課題(読書の関心をもたせる必要がある)の対策について説明させていただきました。そのときにいただいた御意見を以下に紹介します。



【本年度授業参観デーより】

### 【第1回学校評議員会でいただいた話題】

- 読書の関心を高めるための対策として、本年度、先生が魅力的な本を選んで読み聞かせをする取り組みはよい。昔話は、心の教育にもつながるので、ぜひ、昔話にもふれるようにしてもらいたい。
- 教室が整理されており、子供が落ち着いている。先生も熱心で、授業をよく考えている。
- 小学校では、お金の計算など生活と結びついた大切な学習が多くある。基本的な計算力を身につけられるようにしたい。
- 正しい姿勢を身につけられるようにしたい。えんぴつの持ち方検定(2学期実施予定)もよい。
- これからは、考える力・工夫する力・知恵をつけさせることが大切である。
- 校長室だよりを楽しみにしている。

貴重な御意見をいただきました。御意見をふまえ、六ツ美中部小学校の教育が前進するよう、努めてまいります。今後現況報告に加え、第2回(2学期)には児童との対談、第3回(3学期)は次年度に向けた課題検討を予定します。